

アジアからみた 「明仁」天皇の 30 年・代替わり・今

—昨年、天皇の代替わりが行われました。戦後、2度目の代替わりを経た天皇は私たちとどのように関わっているのでしょうか。被災地を訪問し、「弱者」に寄り添う姿を見せる天皇をどのようにとらえればいいのか。コロナ禍で揺れる世界の中で、天皇制はどのような意味をもつのでしょうか。視点をアジアに広げる中で、この課題を考えます。



講演：金性済（キム・ソングエ）さん

NCC 総幹事・在日大韓教会

日時：2021年2月11日（木）

ブログにて動画配信致します。

<https://peace815liberal211.at.webry.info/>



1966年に「建国記念の日」が「国民の祝日」として法制化されて、55回目の2.11を迎えます。

2月11日を「建国記念の日」としたのは、架空の人物・神武天皇がこの日に即位したとする『日本書紀』の紀元節に基づく、いわば神話です。戦前では、この神話に基づいて天皇は天照大神の子孫であると教えられ、天皇参拝が義務になり、この強い信仰は、侵略戦争に向かう国策批判を封じこめる役割を果たしました。

2月11日は、このような負の歴史が刻まれた日です。2月11日を「国民の祝日」として法制化した意図には、再び天皇を神として日本に定着させる狙いがあります。私たちはこの「建国記念の日」制定の意図に反対し、言論の自由、思想信条の自由を守る社会を創るためにこの集会を続けています。